

# 1. 評価結果概要表

作成日

平成 20年 4月 22日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4091400038		
法人名	有限会社 クロヤマ		
事業所名	グループホーム むつみ		
所在地	福岡県福岡市早良区内野5-24-42 〒811-1123 (電話) 092-803-0515		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成20年4月16日	評定確定日	平成20年5月16日

## 【情報提供票より】(平成 20年 4月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 5月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	10人 常勤	7人 非常勤	3人 常勤換算 9,0人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建ての～	1階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有(円)	有の場合償却の有無	有無	
食材料費	朝食	300円	昼食	383円
	夕食	600円	おやつ	50円
	または1日あたり 円程度			

### (4) 利用者の概要(4月 1日現在)

登録人数	7名	男性	3名	女性	4名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	名				
要支援1	名				
要支援2	名				
年齢	平均 83,5歳	最低	77歳	最高	91歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	川浪病院、吉田内科消化器科、きむら歯科、広橋病院
---------	--------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームを開設して2年経ち、町内の廃品回収や清掃活動への参加、地域の銀行や郵便局、スーパーなどへホーム便りを掲示させていただく等、ホームを知ってもらうための取組みが行われている。また、日々の散歩時の挨拶や何気ない会話、地域の方から花を頂いたり、ホームで収穫した野菜をお裾分けするなど、少しずつであるが地域の中での普通の暮らしが営まれている。入居者一人ひとりを良く理解し、出来る事、出来ないことを見極めながら、一人ひとりに寄り添ったケアが行われている。共有空間には、写真や入居者の作品、季節の草花等が飾られており、家庭的で落ち着いた空間となっている。自己評価を実施するにあたり、ホームの現状を冷静に受け止め、質の向上にむけた具体的な取組み内容を記載するなど、今後の方向性が明確となっており、今後の取組みが大いに期待できる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	<b>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</b> 前回の評価結果について家族の面会時に説明を行い、職員へはミーティング時に周知し改善について話し合うなど、質の向上にむけた取組みがある。この過程において、その都度、理念の見直しや地域交流への取組みなど、質の向上にむけた成果が見受けられる。
	<b>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</b> 今回の受審にあたり、管理者がチェックを行った後、職員に確認し追加訂正を行うなどの取組みがある。自己評価を実施する過程において、ホームの現状を冷静に受け止め、質の向上にむけた具体的な取組み内容を記載するなど、今後のビジョンが明確となっている。
重点項目	<b>運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6)</b> 入居者家族、近隣住民、管理者、施設長の参加により不定期(3~4ヶ月に1度)ではあるが開催されている。民生委員や行政、地域包括支援センター職員等へ声かけは行っているが参加には至っていない。運営推進会議の持つ意義について再度、家族・近隣住民・民生委員等に説明し、幅広い方々の参加と活発な意見交換や情報交換に取り組んでほしい。
	<b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</b> 家族面会時の説明やその都度の電話連絡、月に1度の手紙による報告が行われている。また、ホーム便りを2カ月毎に作成しての送付がある。これらの働きかけを通じて、家族等の意見や要望が表出しやすいように努めている。運営推進会議後に家族会が行われており、出された意見については、ミーティングで話し合うなどの取組みがある。
重点項目	<b>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</b> 町内の廃品回収や清掃活動への参加、地域の銀行や郵便局、スーパーなどへホーム便りを掲示させていただく等、ホームを知ってもらうための取組みが行われている。入居者は、日々の買い物や散歩時の挨拶、町内の夏祭りへの参加など、普通の生活の中での交流ができています。

## 2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	基本となる理念を作り、その時々にあわせた 理念となるように職員で話し合いながら作り上 げている。入居者の能力に応じた生活環境作り の一つとして、地域交流に取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	日々の業務の中で職員と話したり、職員同士 が注意しあうなど、常に理念を振り返るための 取組みがある。また、月1度のミーティング時 には理念をふまえての協議が行われている。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	町内の廃品回収や清掃活動への参加、地域の 銀行や郵便局、スーパーなどへホーム便りを掲 示させていただく等、ホームを知ってもらうた めの取組みが行われている。入居者は、日々の 買い物や散歩時の挨拶、町内の夏祭りへの参加 など、普通の生活の中での交流ができています。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の評価結果について家族の面会時に説明 を行い、職員へはミーティング時に周知し、改善に ついて話し合うなど、質の向上にむけた取組み がある。今回の受審にあたり、管理者がチェックを 行った後、職員に確認し追加訂正を行うなどの 取組みがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者家族、近隣住民、管理者、施設長の参加により不定期(3~4ヶ月に1度)に開催されている。民生委員の参加の依頼はしているが参加実績はない。また、行政や地域包括支援センター職員等の参加実績もない。		運営推進会議の持つ意義について再度、家族・近隣住民・民生委員等に説明し、幅広い地域住民の方々の参加による活発な意見交換や情報交換に取り組んでほしい。また、行政や地域包括支援センターへは継続的に働きかけを行ってほしい。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	疑問点があれば、その都度の問い合わせや6ヶ月に1度のケースワーカーの来訪が行われている。運営推進会議への行政や地域包括支援センター職員等の参加がみられず、今後の課題である。		運営推進会議への参加の依頼や会議録の報告、その都度の問い合わせ等、今取り組まれていることを継続していただきたい。更に、介護相談員の受け入れやホーム行事の案内等を送付するなど、頻回な来訪へつながるよう取り組んでほしい。
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員への説明はミーティング時を利用して行われているが、勉強会等へ参加する機会が少なく不十分である。また、家族等への説明は、面会時に説明を行っているが、全ての家族等に対して資料などを提示しての繰り返しの説明にまでは至っていない。		インターネット等から得た情報をもとに、職員の理解の浸透を図るよう取り組んでほしい。必要な人が必要な時に利用できるように、制度の説明や窓口の紹介など、繰り返し実施してほしい。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族面会時の説明やその都度の電話連絡、月に1度の手紙による報告などが行われている。また、ホーム便りを2ヵ月毎に作成しての送付がある。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時の説明やその都度の電話連絡、月に1度の手紙による報告などを通じて、家族等の意見や要望が表出しやすいように努めている。運営推進会議後に家族会が行われている。出された意見については、ミーティングで話し合うなどの取組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の辞職時は、入居者へのダメージに配慮し、とりたてて説明するのではなく、日常生活の中において自然な形で説明が行われている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用に当たってはなんらの制限も設けられていない。ホーム便りの作成、レクリエーション、ホーム内の装飾などに職員の趣味や特技が發揮されているのが伺えた。出来る限りの休みの調整を行うなど、職員が生き生きと勤務できるための配慮がある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日々の業務の中で、自分の立場に置き換えての指導等が行われている。広義の意味の人権についての勉強会や啓発活動等への取り組みは今後の課題である。		広義としての人権意識について理解を深め、職員一人ひとりの意識を喚起するためにも、人権学習会の取り組みや行政等の講話への参加など、さまざまな機会を利用し取り組んでほしい。
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	休日を利用した研修会への個人的な参加や、研修案内等で日程が合えば参加するなどの取り組みはあるが、ホーム内での勉強会への取り組みは、ほとんど見受けられない。		計画だてたホーム内勉強会の充実を図るとともに、外部で学んできた知識を、他職員への周知と共有化のための報告会の実施に取り組んでほしい。
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームや病院、小規模多機能事業所等への見学を行い情報交換を行っている。職員のストレス解消の意味も含めて、事業所間の親睦会が予定されるなど、色々な角度から質の向上にむけた取り組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族との面談及び見学を通じて、馴染みの関係を作り、本人が納得の上で入居できるような働きかけがある。また、本人の状況に応じて時間をかけて何回かの自宅訪問を行い、昼間の利用から進めていくなどの取り組みがある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の作り方を聞いたり、昔の習慣や服装、育った地域のしきたりや方言など、職員が入居者から積極的に学び取ろうとする姿が見受けられた。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者・家族との面談や自宅訪問により、思いや希望、意見、要望等の把握に努めている。把握した情報は、アセスメントに記入して情報の共有に努めている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	日々のかかわりを通じて入居者の思いや希望の把握に努め、家族面会時に担当者会議を開き、家族、職員間で協議して介護計画書が作成されている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	全ての入居者の状況について、毎月のミー ティング時に協議しモニタリングを行うなど の取組みがある。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	行きつけ美容室の利用支援、自宅外泊時の送 迎、入居者の希望に応じての1対1でのドライ ブ、家族対応が無理な場合のかかりつけ医への 受診対応などの支援がある。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	ホームとしての協力医があり、24時間対応可 能である。ホーム協力医による週1度の往診が ある。また、以前のかかりつけ医への受診は、 基本的に家族対応で可能であるが、家族対応が 無理な場合は、ホームで対応を行うなど取組み がある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	契約時に、緊急医療承諾書の内容を説明して 同意を得ている。緊急医療承諾書中には重度化 や終末期に対する内容が記されており、ホーム としての対応体制を含めて説明が行われている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	入居者に合わせての声かけや親しみのある声 かけ、入居者に対して丁寧にお礼を述べるな ど、入居者を尊重した言葉かけや対応が見受け られた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	ホームとしての一応の流れはあるものの、日 中の過ごし方、食事のペース、食後の過ごし方 など、日常生活の全般において、その時々 の入居者の気持ちを尊重した対応が見受け られた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	職員と入居者は一緒に食事を取り、楽しい会 話の中での食事風景であった。メニューは入居 者の希望を聞いて、料理の本を参考に栄養バラ ンスを考慮しながらの作成がある。食後の下膳 や片付け等を入居者と一緒に行っている光景 は、まさに大家族の食卓の光景である。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミン グに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	基本的には週に3回の入浴日の設定である が、入居者の希望によって入浴日を変更するな どの対応がある。11時～19時まで入浴可能 であり、入居者の希望する時間での入浴が可 能である。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	入居時に把握した情報をもとに、洗濯物干し やたたみ、居室の掃除、おぼん拭き、テー ブル拭き、下膳、畑仕事などの役割を担っ てもらうような働きかけがある。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	日常の中での散歩、週に1度の買い物、月に 2～3回のドライブなど、入居者の希望や天 候等に合わせた支援がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は常に開錠されている。玄関内戸には チャイムを設置し、常に目配り・気配りを 怠らず、入居者の状態や外出理由を把握 した上で散歩に出かけるなどの対応があ る。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年に2回の避難訓練や消防機器の点検等 を通じて、避難経路や避難方法を把握し ている。近隣住民との日々の付き合いを 通じ、緊急時の協力体制は出来ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	メニューは入居者の希望を聞いて、料理 の本を参考に栄養バランスを考慮ながら の作成である。食事摂取量はチェックを 行い把握している。水分は、自由にお茶 が飲めるようになっており、頻回な声か けを行うなど、水分不足にならないよう な配慮がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには写真や入居者の作品、季節 の草花等が飾られており、季節感をふんだんに 取り入れ家庭的で落ち着いた空間である。リビ ングのソファでは、入居者が他の入居者へ手 招きしたりそっと寄り添う光景から、居心地の 良さが伺えた。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	居室には、箆笥、テレビ、写真等の使い慣れ た物や馴染みの物が持ち込まれており、入居者 の人となりが見える居室となっていた。		

 は、重点項目。  
(数字)は、国の標準例による番号